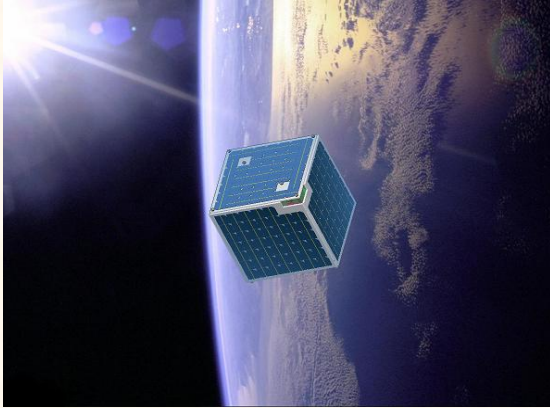


【参 考】

◎超小型衛星開発プロジェクトとは

高等専門学校に在学する15歳から22歳までの学生が衛星開発を行うという世界最年少クラスの衛星開発プロジェクトです。

開発した超小型衛星KKS-1 (Kouku-Kousen-Satellite-1)「愛称：輝汐 (きせき)」は、2009年1月の宇宙航空研究開発機構 (JAXA) によるH-IIA ロケットの打ち上げに際し、相乗り小型副衛星として搭載され、現在も地球周回軌道上を回っています。



超小型衛星 (イメージ)



超小型衛星開発プロジェクトの学生達

◎輝汐の現在の状況

打ち上げから1年2ヶ月が経過した現在も「輝汐」は地球を約90分で1周する軌道を回っています。「輝汐」はモールス信号を発しており、その情報は今でも世界中から受信報告が届いています。

しかし、打ち上げ当初から通信の不具合があり、地上から衛星を操作できない状況が続いています。衛星運用を引き継いだ6名の後輩学生が、通信復旧に向けて懸命の努力を続けています。

通信が復旧した後は、火薬を使った姿勢制御、写真撮影などのミッションに取り組む予定です。

◎今後の衛星開発の予定

「輝汐」に続き、学生による次の活動として、一辺が30cm立方体形状の光通信および宇宙ロボット衛星を研究開発する予定です。2013年を目途に「輝汐」と同様、H-IIA ロケット相乗り衛星として打ち上げることが目標です。